

Next 50



おかげさまで50周年



武蔵村山 未来への絆

理事長対談 創立50周年記念!!武蔵村山市 藤野勝市長 対談

インフォメーション わんぱく相撲・50周年記念特集

過去から現代そして未来への繋がり
武蔵村山の宝とは
藤野市長が思い描く武蔵村山と青年会議所

公益社団法人立川青年会議所

わんぱく相撲 東京都大会 立川場所

6月29日(日) 立川市子ども未来センターにて開催!

立川JC で検索!

THE WANPAKU

JCI 公益社団法人立川青年会議所 わんぱく相撲東京都大会委員会 わんぱく相撲東京都大会運営協議会 立川市

事業紹介・報告

若者発掘プロジェクト

2014年度地域協働委員会では「若者発掘プロジェクト」と題しましてホームページを開設しております。若者発掘プロジェクトとは、これからの地域を担う若者の活躍にスポットライトを当てることにより、若者が情熱を傾けている事柄や将来の展望に対し応援するプロジェクトです。

取材対象の若者は自薦他薦を問いませんので、身近に魅力的な若者が活躍しておりましたら、是非ご一報下さればと思います。取材をして感じることは、全力で活躍している若者は無条件に素晴らしいということと、多摩地区についてまだまだ知らないことばかりだということです。このプロジェクトを通じて益々このまちとこのまちの人々が好きになりました。

今年度取り上げさせていただいた若者として、「日野市おもてなしロボットプロジェクト」に携わった現在大学4年生の栗原徹さん、武蔵村山市で「福笑い農場」を始めた農業青年福島謙さん、石田倉庫にアトリエを構える「鉄の芸術家」こと小沢敦志さんがおります。

今後、個々がそれぞれで活躍しているだけでなく、その姿勢や目指すべきまちづくりに共感できる人々が交流していければと思っております。そうすることで点と点が線になり、やがて面となって地域の活性化に広がりをもたらされるのではないのでしょうか。この地域を拠点に活躍する魅力的な若者と出会い、夢を語り、想いを共にし、協働する機会をつくることで、更なる地域の発展を目指しますので今後とも「若者発掘プロジェクト」をよろしくお願い致します。

地域協働委員会



公益社団法人立川青年会議所 50周年記念事業

乙武洋匡 講演会

入場無料

今、動くとき!

— 大人が子供達のためにできること —

開催日 2014年5月29日(土) 時間 19:00~21:00 (18:30受付開始) 場所 たましんRISURUホール 大ホール

同時開催

キッズヒーローチャレンジ

子どもたちが創るダンスフェスティバル

キッズドリームチャレンジ第2弾

「子どもたちが創るダンスフェスティバル」説明会

イベントに必要な全12業種を地域の企業と連携し 職業体験を通して子供達の手で行います!

開催時期 2014年7~8月 対象者 小学校4~6年生

テーマ 職業体験

ON AIR



立川青年会議所 で検索!

facebookページに今すぐアクセス!



賛助会員

- ・多摩信用金庫・宗教法人 真如苑
- ・有限会社 桜運転代社・有限会社 東陽企画グループ・パレスホテル立川・ザ・クレストホテル立川・学校法人 地球のひろば藤幼稚園
- ・立川グランドホテル・小杉歯科医院・有限会社 新光社・緑彩着房 うのや・立川ルーデンステニスクラブ・アフタースクールプラスアップ
- ・株式会社純和ホテルズ・株式会社 GOSHIKI・立川ワシントンホテル・鳥良 立川2号店

公益社団法人 立川青年会議所

〒190-0012 東京都立川市曙町2-38-5
立川ビジネスセンタービル12F
TEL: 042-527-1001 FAX: 042-527-6600
E-MAIL: info@tachikawajc.or.jp

会員を募集してます!

私たちと共に活動して下さる方々を募集しております。

立川・国立・武蔵村山の3市にお住まいか、ご通勤されている20歳から38歳未満の方であれば性別・職種問わずご入会いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

立川青年会議所ホームページ: www.tachikawajc.or.jp

過去から未来へ 私たちのまちのNext 50

武蔵村山市の遍歴

理事長 本日はお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。私共立川青年会議所は武蔵村山市、立川市、国立市3市を活動エリアとして、本年度創立50周年を迎えさせていただきました。そのような中、今まで以上に地域に密着して運動を展開して参りたいと考えており、本年度は首長の皆様から地域に対する想いやお考えをお聞きしながら、私たちの運動と共に地域に発信して参りたいと考えております。まず、武蔵村山の歩みについてお聞かせいただけますでしょうか。

市長 昭和30年から40年代初頭までの村山町の時代には人口が15000人程度でありまして、昭和三十六年に工場誘致条例をまちが制定し、日産自動車前身のプリンス自動車の誘致に成功しました。車の好きな方ならお分かりかと思いますが、日産自動車は当時スカイライン、GTRを製造しておりましたのでその製造工場があるまちとして知られており、工場跡地の角にあるプリンスの丘公園にはGTRの石碑があります。



すので、是非ご覧になってみて下さい。

村山町が市になる前提として、昭和40年に都営村山団地の誘致が決定しました。入居は41年から始まり、当時都内で最大の5260世帯を有する都営村山団地が完成し、15000人の入居者を市民として迎入れる事となりました。一気に人口が今までの2倍となり、特例市として市制を施行しました。

現在武蔵村山市は人口72000人を超えており、1.5・3.7平方キロメートルの面積を有しています。市を象徴するものにはトトロの森の延長である狭山丘陵、村山野水池、野山北公園六道山、村山温泉かたくりの湯等があげられ、自然の素晴らしさを体感できるとともに温泉をご堪能いただいております。

日産自動車様が撤退した後は、その敷地の一部に都内最大級のショッピングモールであるイオンモールが誕生し、お正月三日には一日に70000人を超えるお客様が来店されます。しかしながらその一方で、武蔵村山市には駅がなく市の中心というものがないため、商店街も点在しており、中心市街地となりうる地域があります。

に大切にしています。武蔵村山市職員では「きらめき女性会議21」というものを立上げ、積極的に女性管理職の雇用を促進してまいりました。また、女性だけの消防団を作り「オレンジフェアリーズ」という名前を付けて活動していただいております。女性の防災意識をもっと高めることと、防災に女性の意見を入れて行くということ、各小中学校にある災害対策用備蓄倉庫の申しについて、女性ならではの意見を出していただきたいと思います。たとえば、子供用ミルクやおむつトイレなどご意見をいただき早速追加いたしました。このような男女共同参画社会の構築を目指していきたくと考えています。

文武両道で校内研究の全校実施

理事長 男女共同参画社会という考えは我々青年会議所にも必要な考え方だと思っております。ところで昨年は市の助成金をいただき、ギネスに挑戦する縄跳びの事業を行わせていただきました。また市の教育委員会の皆様と一緒に村山つ子相撲とわんぱく相撲を融合させていく事を展開させていただきました。これは私たちの運動の柱である青少年事業であります。私たちが自身が20歳から40歳までの子育て世代の集まりでありますので、まさに私たちが自ら取り組んでいかなければならない重要な施策となっております。青少年の健全育成についての市長のお考えをお聞かせいただけますか。

市長 武蔵村山は小学校中学校が隣接しているところが多く小中一貫教育を行っており、離れている場合でも小中連携教育を行っております。そこで中学1年生に起こる「中1ギャップ」を解消できると思っております。また、文武両道を念頭に置いているので、青年会議所が行っている青少年事業は本当に素晴らしいものだと常日頃感じております。これは単年度で終わることなく是非継続していただきたい。

そして武蔵村山市はこれまで校内研究を全校で実施してきました。たとえばスポーツ教育推進校であったり、人権教育推進校であったり、道徳教育推進校と必ず1校1つ以上は研究を行うこととなっております。教育委員会の想いを先生方に受け入れていただき本当に体となってやっていたらいいなと感謝しております。

まねん。
地域のたからを市民の皆様にもっと知ってもらいたい

理事長 今のお話をお聞きして立川青年会議所は1965年に創立されましたが、都営村山団地が1966年に出来たということで、時代を重ねてみて初めて気づきました。そのような歴史のある武蔵村山市ですが、地域の自慢できる宝にはどのようなものがあるのでしょうか。

市長 まずは多摩地域で一番のものがありません。みかんの生産量は多摩26市のうちで一番です。また、りんごも同様です。それと市民一人当たりの都市公園の面積も多摩で一番となっております。また、子供を産みやすい子育てしやすいまちランキングでも212の自治体で昨年一番となっております。このような事をもっと市民の皆様が知っていたら、胸を張って歩いていただきたい。そして私自身が率先して各方面にPRを行っていき、歩く広報無線として積極的に打って出ていきたいと思います。

一方で、都にお願いをして都営村山団地の空き地3.7haの広大な敷地を借り受けて50万本ひまわりを植えて、様々なイベントや事業を行って「ひまわりガーデン武蔵村山」をオープンいたしました。これは市民の皆様が外に出て友達とふれあい、武蔵村山市の良さをもっともっと知ってもらいたいという想いで、まちにできれば消費が生まれ、まちが好循環をもたらしではないかと考えています。

理事長 産みやすい子育てしやすいまちランキングというのはこの市民一人当たりの都市公園比率ともリンクしてきているように感じます。幼稚園の入園のしやすさなどもあるのではないのでしょうか。住みやすいまちというのは魅力的ですね。
市長 そうですね。自然があつての所だと思っております。また、武蔵村山市ではFood(風土)グランプリという事業も展開しております。本年度で第3回を迎えました。これは武蔵村山市の食材を品使った料理であれば、誰でも出場できるものになっています。

という文字が入っていました。皆さんとお話するにあたって昨晩寝る前に少し考えたからなのかも知れませんが、私にはこういう想いがいつもあるのだと再認識しました。

また、雷塚小学校の子供たちも50年後の武蔵村山ということで展覧会を開いてくれました。その作品の中にはモノレールが走っていて「新武蔵村山駅」というものがありました。私の考えるモノレールの駅は、自然と調和した景観のとれた駅舎であります。このことから自然と一体となったまちづくりをしていきたいと思います。

そして市の職員が日本一働く市役所を目指します。また、職員をまちに飛び出させる代わりに、私自身も率先してまちに出ていき範を示していきたいと思っております。

理事長 私共青年会議所も様々な場面で市と連携をさせていただき、自分たちの住むこのまちをより良くしていきたいと思っております。本日は貴重なお話をありがとうございました。



理事長 武蔵村山市には10品目の地域ブランド認証商品がありますが、このうちの1つである武蔵村山名産の小松菜を使用した「小松菜入り豆乳おからドーナツ」を作っている比留間千春さん(こしちゃん)は、立川青年会議所が本年度行っている事業の一つである「若者発掘プロジェクト」という地域で活躍している若者にスポットライトを当てて発信していくという事業で取材をさせていただいた経緯があります。何かそのような地域との繋がりを作っていただけるような事を私たちがもやっしていきたいと考えています。

色々な視点から物事を捉えていく

市長 実は私も昨年武蔵村山で「青年会議U40」というものを立ち上げています。若者に市政について関心を持ってもらうために立ち上げたところ、若者の視点で、狭山丘陵を活用するスポーツイベントやむらやまかとうどんのブランド化など色々な意見をいただきました。公衆で青年を集めまして、中には大学生もおりました。お名前は青年会議所からお借りしてしまいましたが、良かったです。
理事長 色々な視点から物事をとらえていく事は非常に重要なことだと思います。それを実践されていることは素晴らしいですね。
市長 色々な視点という面から言うと、女性の視点という事も非常に



立川市子ども未来センターにて行われる「第26回わんぱく相撲東京都大会 立川場所」を開催致します。「地域との繋がり」を大会テーマに掲げ、子供たちの心身の鍛錬と、健康の増進、青少年健全育成を目的とし、社会生活をする上で大切な「努力・礼儀・思いやり」などを相撲を通じて学んでもらいたいです。そして地域で活動する私たちが更に「地域との繋がり」を深め、更には地域外の方々とも連携を深める事で、より強く「心豊かな青少年の育成」を推進して行きたいと思っております。わんぱく相撲を通じて、子供たちに夢を与え、強い心と感謝の気持ちを育ててもらいたいです。

「地域との繋がり」

～わんぱく相撲 東京都大会を立川の地にて開催～

「わんぱく相撲」は、遊び場の少ない東京の子供たちにスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛錬と健康の増進を目的として、手軽に行えるスポーツである「相撲」をとりあげ、1977年に社団法人東京青年会議所が23区全域に運動として展開したことに始まります。その後、全国各地の青年会議所を通じて普及発展し、現在では全国204の地域で約45,000人も小学生が参加しています。毎年4月から、地区ごとの予選大会が始まります。そこで勝ち上がると、都道府県代表を決める最終予選大会に進めます。代表選手に選ばされると、大相撲でも使用されている両国国技館で行われる全国大会に出場できます。今年度、私たち公益社団法人立川青年会議所は、6月29日(日)、

Next 50



Take Free



おかげさまで50周年



変化する立川 未来への繋がり

理事長対談 創立50周年記念第2弾!!立川市 清水庄平市長対談

インフォメーション 第26回立川よいと祭り~立川の未来を提灯に灯してみよう!~

異文化を受入れるまち立川のルーツとは
次世代を担う子供達の未来への繋がり
清水市長が想い描く立川の将来像と立川青年会議所

第905回例会 50周年記念式典

~全ての「繋がり」新たな一歩へ~

日時	場所	参加者
2014年7月24日(木) 16時00分~20時00分 (受付開始15時30分)	式典：シネマ・ツー studio a 祝賀会：パレスホテル立川4F (JR中央線立川駅下車徒歩5分)	清水 庄平 様 (立川市長) 佐藤 一夫 様 (国立市長) 藤野 勝 様 (武蔵村山市長) 他 宇都木 健太 (公益社団法人立川青年会議所理事長) 他

キッズ・ドリームチャレンジ 子どもたちが創るダンスフェスティバル



キッズドリームチャレンジでは、『職業体験』を通じて子供達の手によって一つのフェスティバルを作り上げます。協同して一つの事を成し遂げることで、広い視野と多様な思考を身に付け、仲間や支えてくれる大人達との「繋がり」と「思いやりの心(支えあいの心)」、さらには仕事の楽しさや厳しさを学び、人から感謝される喜びを感じる事で「自己肯定感」と「地域愛」を育み、子供達の将来の夢を膨らますきっかけにします。

Step1	Step2	Step3
今、動くとき! ~大人が子供達のためにできること~	子どもたちが創るダンスフェスティバル	体験報告会
5月29日 乙武洋匡氏 講演/事業説明会	6月~ 参加募集 7月~ 事前学習会/職業体験 8月8日 発表会	9月13日 事後学習・報告会 そして継続へ...

只今STEP2大好評開催中!!!

共催：立川市 後援：立川市教育委員会 立川市立小学校PTA連合会 立川市子ども会連合会 担当：青少年委員会

事業紹介・報告

未来へのきずな創造委員会(拡大)

私たち未来へのきずな創造委員会は、私たち青年会議所の運動に共感し、メンバーとして共に活動して下さる方々のリクルーティングをメインに活動しています。

青年会議所と聞いても、どんな活動をしているの?どんな人がいるの?一緒に活動したら自分はどうか成長できるの?

そんな「?」を「!」にするべく、毎月青年会議所の運動を紹介するオリエンテーションを開催し、懇親会では在籍するメンバーとのマッチングを行います。また地域で活動する青年たちの出会いを創造すべく、異業種交流会も開催させていただきました。

これからも、私たち未来へのきずな創造委員会は、未来に向けて地域の皆様との「きずな」を創造する為に、日々共に活動して下さる皆様に、私たちの運動を発信していきます。

立川青年会議所ホームページよりお問い合わせ下さい。



立川青年会議所 で検索!

facebookページに今すぐアクセス!



賛助会員

- ・多摩信用金庫・宗教法人 真如苑
- ・有限会社 桜運転代行者 有限会社 東陽企画グループ・パレスホテル立川・ザ・クレストホテル立川・学校法人 地球のひろば藤幼稚園
- ・立川グランドホテル・小杉歯科医院・有限会社 新光社・緑彩肴房 うのや・立川ルーデンステニスクラブ・アフタースクールプラスアップ
- ・株式会社純和ホテルズ・株式会社 GOSHIKI・立川ワシントンホテル・鳥良 立川2号店

公益社団法人 立川青年会議所

〒190-0012 東京都立川市曙町2-38-5
立川ビジネスセンタービル12F
TEL: 042-527-1001 FAX: 042-527-6600
E-MAIL: info@tachikawajc.or.jp

会員を募集してます!

私たちと共に活動して下さる方々を募集しております。

立川青年会議所ホームページ: www.tachikawajc.or.jp

過去から未来へ 私たちのまちのNext 50

清水立川市長対談 2014年5月15日

理事長／本日は、「立川の魅力」それから、私たちは今年度創立50周年という節目の年ということで新たな一歩を踏み出そうとしておりますが、同様に「立川の次の50年」についてお話をさせていただきたいと思っております。それはまず、「立川の魅力」についてですが、立川J.Cでは4月の定期例会において「立川宣伝会議」と題し、立川J.Cと立川観光協会、J.C.Nマイテレビ、立川市社会福祉協議会の皆様とでパネルディスカッションを行いました。まちとのかかわり方が異なる中で、4者がそれぞれ立川というまちをどうやって魅力的に発信していくか、まちの活性化に繋げられるかについて語り合いました。まずは、市長がお考えになる「立川の魅力」とは、どのような所をお聞かせいただけますでしょうか。



立川市 清水庄平市長

と女性の社会進出を充実させなければならず、実際私もそこに力を入れているつもりです。この場で全ては語れませんが、例えば、市役所でも、私が市長になった当時は女性幹部は2人しかいなかったのですが、7年経った今では12名いますね。

市長が在籍していた頃の立川J.Cは

理事長／先程のお話で、人口減を見据えた中で市の在り様が1つのキーワードでした。一概に私たちの団体に置き換えることはできませんが、市長が立川J.Cに在籍されていた頃は、メンバーはどれくらいでしたか。

市長／私が在籍していたのは30年前ですが、多い時で130名くらいでしたね。100名前後で増えたり減ったりという感じでした。現在も100名前後というところで、30年前と変わらないようですから、立川国立、武蔵村山の3市でいうとそれくらいが落ち着くところなのかもしれません。

理事長／まだこの地域でも未達なので、J.Cでは、人口千人に1人はJ.Cメンバーという割合を目標としています。立川ですと、17万人なので、1700人ということですね。なかなか高い目標ですね。今年はその足掛かりとして、1500人のメンバーを増やしていきたいと考えています。運動体として数は力ということもありますが、何よりJ.Cは40歳で卒業ということもあり、常に会員を増強し続けなくてはならず、考え方も知れません。新陳代謝を繰り返す中で個の成長と組織としての成熟度が揃っていくと考えています。しかし、数の論理の方で、私は組織をもっと筋肉質にしていかなければならぬと思っています。人口減少を前提とすれば、ある程度組織規模が小さくなったとしても、これまでと遜色ないような質の運動が出来るような組織づく



第50代理事長 宇都木健太君

異文化を受け入れる素養

市長／立川の魅力は一言では言えないですが、これといった魅力がなくて、よく「こた煮文化」と言われます。これは決してネガティブな意味ではなく何かというと、歴史を振り返ると立川市民は異文化を受け入れる素養を持っていたのだと思います。例えば、蚕や桑産業を生業としていた当時の住民は、蒸気機関車の黒煙を嫌い、鉄道路線の敷設計画に反対し、町外れへ計画変更していましたが、最終的に立川市は甲武鉄道を受入れました。その結果、当時から現在に至るまでまちの中心には駅がございませぬ。また、飛行第五連隊や米軍を受入れることによりまちに活気が生まれ、賑やかな立川市の原点となりました。加えて、百貨店の受入れも賑やかさを増しました。伊勢丹立川店は支店では東京都で第1号です。さらに、静かな住環境が害されたり、

りに転換していかなければならないと考えられています。

J.Cには先駆的な青少年事業を

理事長／本年度立川J.Cはこれからの50年先に向かつて心新たに歩みを進めるべく「NEXUS 50 今、変革の時」確かな一歩を踏み出そう」というスローガンを掲げております。50年先というと、これから担う子供達世代が主になります。このようなことから、本年度は50周年の記念事業として、子供達だけで手作りのダンスフェスティバルを運営するという青少年の健全育成にフォーカスした事業が動き出してあります。地域の企業にご協力いただき、運営するにあたるべく様々な業種を子供たちに経験させ、最終的にフェスティバルを作り上げるというものです。本事業には、立川市からも共催をいただいております。是非、次代を担う子供達、青少年健全育成について市長のお考えを伺えますか。

市長／まさに行政等がカバーできない部分をJ.Cが長年続けてきた部分であり、これからも是非、先駆的な青少年育成事業を意識し続けてもらいたいですね。今年などは、わんぱく相撲の東京都大会も開催されますし大いに期待しています。市としても全面協力していきたいと思っております。

理事長／最後に20代、30代、若しくは立川J.Cメンバーへメッセージを頂戴したいと思います。

市長／OBとしては、立川J.Cには、もう少し政治に顔を出してもらいたいと思っております。J.Cのメンバーだと様々な事業に関われるでしょう、同世代の仲間作りもできるでしょう。あとは是非とも、政治の場でもJ.Cの理想を目指してもらいたいですね。立川J.Cは、近年あまり元気がないなと思っております。市議会議員に全然出て来ない事です。国会議員を見るとJ.C

東西を分断すると抗議されていた多摩都市モノレールでありましたが、立川市発展の為には必要不可欠と考え受入れたという背景がありますね。

50年後の立川 コンパクトシティ

理事長／立川駅は中央線沿線の新宿駅より西において、乗降客数は吉祥寺を抜き新宿に次ぐようになりました。住んでいる人と、来街する人という観点でみると、通勤や買い物でまちを訪れる人は増えていますが、その来街者を滞留させるプロモーションがもっと必要だと思います。人口減少が見込まれる中、住む人を劇的に増やす戦略は取りにくいと思われすが、その点のお考えをお聞かせください。

市長／立川市は夜間人口が約18万人、昼間人口が約21万人といわれています。この昼間人口のデータは企業に在籍している統計をベースに算出されています。つまり、買い物客や観光客はカウントされていないということです。例えば、オープンしたばかりのIKEAさんには、週末ですと1日に約4万人来ているとも聞きます。そうしたことを考えると、実際に昼間に立川にいる人の数は、25万人を優に超えているのではないかと思っています。

理事長／そうすると50年先の立川の在り様を考えると、ハード面を強化した賑わいの創出が軸になっていくのでしょうか。

市長／言い方が悪いかも知れませんが、今の立川市は喧嘩の賑わいをみせていると思います。まだ国有地として4ヘクタールある土地の4分の1はエンターテイメント系企業、残り4分の3には商業施設が立地してくれば4、5年後にはさらに賑わってくると思います。しかしながら、50年先の立川というと、もっと落ち着いたまちになっているのではないかと気がします。いずれにしても日本の人口は既にピークを過ぎ、減

出身者が30人以上いるようですね。地域社会のリーダースhipをとって、理念の実現に向けて市議会議員や首長へどんどん顔を出してもらいたいです。理念実現への最短コースだと思います。それれ皆が経営感覚を持つといいです、あとは意識をそちらに向けただけだと思いますよ。

理事長／あんまりそのようなことを言っていただけの機会がないので、ありがたいです。立川市長としてのメッセージも頂戴出来ますか。

失敗を恐れずに果敢にチャレンジを

市長／青年として勇気を持って前に進むことが出来る年代だし、怖いものなしの年代です。失敗をおそれず果敢にチャレンジしてもらいたいですね。よいと祭りの前身もJ.Cが始めたメトロポリス祭でしたし、立川市の美術館構想も始まりはJ.Cですからね。

少局面に入っています。政府としても50年後の人口目標を1億人にするとの発表がありました。安定して1億人で推移するのはまさに50年後ということですね。実際に欧州各国などでも、人口減を食い止め、回復させ、安定させるまでには約50年かかっています。立川市も例外ではなく50年後に人口が安定し、年齢構成のバランスがとれ、成熟した落ち着いたまちになっているのではないのでしょうか。私の考えでは、市内の経済圏が6つ程に分かれ自転車移動できる距離感のコンパクトシティになっていると思えますね。

理事長／今、立川市は24平方キロの広さに17万人が住んでいます。行政サービスなどを考えたときに、市長が考える適切なサイズ感はどう程でしょうか。

市長／現在、人口密度が1平方キロあたり7千人強です。密度が1万人を超えると、ゆつたりとは住めないで、せいぜい7、8千人がちょうどいいのではないのでしょうか。そうすると、人口で言えば、18万から20万人ということですね。ただ、それを達成し維持するには、立川市の施策として子育



理事長／ありがとうございます。私たちは、もっと地域に出ていかなければならないと思っております。100人くらいいると、どうしても自分達でやった気になってしまい、内向きになってしまっている部分があります。個が地域に出ていき、他との繋がりを手繰り寄せられるようにしていかなければなりません。様々な活動の中でJ.Cが見えてこないとするは、まだまだ我々自身が密度の濃いところに入っていないのかと思います。そういう中で、現在は行政や地域諸団体の皆様とも密に連携を取る体制を構築しつつあり、様々な場面でお声がけを頂けるまでになっているので、今後は、さらに信頼関係を積み上げていきたいです。

市長／頼りにしている団体ですよ。頑張ってください。

理事長／今後とも、市長としても立川J.CのOBとしても叱咤激励をよろしく願っています。本日はどうもありがとうございます。

第26回 立川よいと祭り

～立川の未来を提灯に灯してみよう!～

8月2日(土)にサンサンロードにて開催される今年で第26回目となる地域に根付いたお祭り「よいと祭り」の会場に、地域に関わる大人と子供の共同作業によって出来上がった色とりどりの提灯を展示します。子供達には「50年後の立川」をテーマに提灯に絵付けしてもらいます。子供達にワクワクしたイメージした「50年後の立川」を見て、感じることで、参加者や来場者が自分たちのまち「立川」の未来について積極的に考えるきっかけをつくり、地域を愛する心を育むことを目的として開催します。また、この事業をきっかけに、様々な世代の方々から新しいまちづくりのアイデアが生まれることを期待しています。

参加者募集

- 対象 3才～小学6年生
- 参加費用 無料
- 申込み期間 6/30(月)まで
- 申込み方法 インターネット (<http://www.tachikawajc.or.jp>)

提灯作成日程

- ①7月6日(日) 上砂会館 第一学習室
- 午前の部 9:30～12:30 ■午後の部 13:00～16:00
- ②7月13日(日) 子ども未来センター 第一・第二アトリエ
- 午前の部 9:30～12:30 ■午後の部 13:00～16:00

事前PR日程

子ども未来センターギャラリーにて作品を展示(7月7日～7月18日)

事後PR日程

市役所にて、よいと祭り当日の模様の写真展示(8月7日～8月14日)

Next 50



おかげさまで50周年



文教都市国立 のブランド力

- 理事長対談** 創立50周年記念第3弾!! 国立市 佐藤一夫市長対談
- レポート** 第26回わんぱく相撲東京都大会・50周年記念式典
・キッズドリームチャレンジ
- インフォメーション** 次年度理事長決定のお知らせ

人と人が触れ合うまち国立の魅力とは
文教都市国立 今後の未来を担う子供達へ

第905回例会 50周年記念式典

～全ての「繋がり」新たな一歩へ～

2014年7月24日(木)に「50周年記念式典」を開催させていただきました。1部はシネマ・ツアーにて、今まで歩んできた立川市、国立市、武蔵村山市や人の歴史を振り返り、我々がこれから未来についてどの様に変化すべきかを「繋がり」というテーマにて記念式典を行いました。2部ではパレスホテル立川に会場を移し、地域でご活躍される皆様方や、今まで携わっていただいた全ての方々へ「感謝」と「おもてなし」の意味合いを込めた祝賀会を行い、来賓を含め400名近い方々に越させていただきました。



公益社団法人立川青年会議所 50周年記念事業 キッズドリームチャレンジ

子どもたちが創るダンスフェスティバル

キッズドリームチャレンジ遂に閉幕!



「自己肯定感」と「地域愛」を育む事業を展開しました!!
2014年度青少年委員会では、50周年記念事業として「キッズドリームチャレンジ」と題しましてStep1～3で構成された子供達の「自己肯定感」と「地域愛」を育む事を目的とした地域諸団体、企業が一体となって行う事業を開催いたしました。

Step1 Step1では大人が子供達のためにできることとし、東京都教育委員の乙武洋匡氏に講演いただき、まず保護者を対象に自己肯定感の必要性と大切さを再認識していただきました。	Step2 Step2では職業体験と発表会を行いました。立川市内の小学校4～6年生の手によって全12業種各職業のプロである地域企業のご協力により子供達が創るダンスフェスティバルを開催いたしました。地域の人々との繋がりの大切さだけでなく、異地域の子供達同士で仕事のやりがいや厳しさを学び、みんなで一つの事を成し遂げた達成感や喜びを一緒に体験した仲間と共有いたしました。	Step3 Step3では、地域一体で子供は活き、意気奮つと題しまして、事業に参加いただいた小学生、保護者、地域協力企業、学校教育関係者を招き、子供達からは発表会を終えての感想、保護者からは子供の変化についてご紹介いただき、事業に参加した事による子供達の成長、自己肯定感の大切さ、そして地域愛を育む事の大切さを共感いただけました。
--	---	---

公益社団法人立川青年会議所2015年度理事長は 伊藤大輔君に決定!!



立川青年会議所は、2014年7月4日(金)、立川グランドホテルにて第109回通常総会を開催し、伊藤大輔君(39歳、立川青年会議所2014年度副理事長、現立川市市議会議員)を満場一致にて、立川青年会議所2015年度理事長に決定いたしました。立川青年会議所の第51代理事長として、本年度の地域との「繋がり」をどのように継承していくのか、今後の活躍に期待して下さい。

伊藤大輔君の青年会議所での経歴	
2005年	入会 渉外国際交流委員会 出向 東京ブロック協議会 アカデミー研修員会
2006年	青少年委員会 幹事
2007年	教育政策立川委員会 副委員長
2008年	第2国際アカデミー委員会 副委員長
2009年	総務委員会 委員長
2010年	渉外委員会 委員長
2011年	副専務理事
2012年	TJC 政策策定特別委員会 委員長
2013年	専務理事 出向 東京ブロック協議会 24 LOM 連絡会議議員
2014年	副理事長

編集長	
岡部 栄一	副編集長
小林 優貴	渡辺 浩毅
編集委員	
菊田 武	嶋田 巖
鈴木 貴晴	曾我部 吉弘
対馬 一	中島 正俊
山口 学	山本 高義
若林 尚道	

1年間ご愛読
頂きありがとうございました。

立川青年会議所 で検索!
facebookページに今すぐアクセス!

- 賛助会員**
- ・多摩信用金庫・宗教法人 真如苑・立飛ホールディングス株式会社
 - ・有限会社 桜運転代行者・有限会社 東陽企画グループ・パレスホテル立川・ザ・クレストホテル立川・学校法人 地球のひろば藤幼稚園
 - ・立川グランドホテル・小杉歯科医院・有限会社 新光社・緑彩肴房 うのや・立川ルーデンステニスクラブ・アフタースクールプラスアップ
 - ・株式会社純和ホテルズ・株式会社 GOSHIKI・立川ワシントンホテル・鳥良 立川2号店

公益社団法人 立川青年会議所
〒190-0012 東京都立川市曙町2-38-5
立川ビジネスセンタービル12F
TEL: 042-527-1001 FAX: 042-527-6600
E-MAIL: info@tachikawajc.or.jp

会員を募集してます! 私たちと共に活動して下さる
方々を募集しております。
立川・国立・武蔵村山の3市にお住まいか、ご通勤されている20歳から38歳未満の方であれば性別・職種問わずご入会いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。
立川青年会議所ホームページ: www.tachikawajc.or.jp

過去から未来へ 私たちのまちのNext 50

佐藤国立市長対談 2014年8月26日

理事長／本日は大変お忙しい中、お時間を頂きましてありがとうございます。私たちはこれまで、2月に武蔵村山市藤野市長、5月に立川市清水市長と対談を行って参りました。そして今回はいよいよ2014年度広報紙の最終号となります。まずは、佐藤市長に「国立の魅力」についてお聞かせいただきたいのですが。

国立のブランド力、文教都市として

市長／「国立の魅力」を語る上で、まず立川との関係は切り離せませんね。立川で買い物された方がたまには国立にも寄つてくださる。または国立にゆつくり住みながら、買い物に行く時は立川か吉祥寺に行きましょうということが良いのではないかと思います。理／近隣の地域からすると、国立にはある種のブランドイメージがあるのではないかと感じます。綺麗なまち並みに閑静な住宅街や学校もあり、国立は色々なものが凝縮されているよう



国立市 佐藤市長

けまち自体に個人の商店さんたちが多ければ繋がりも出来ます。人がそこに来て回遊すればコミュニケーションが生まれてくると、人間がどこかで絶対に忘れていない、どこかで欲している心の触れ合いを感じる事が出来ます。国立には、そんな温もりを感じやすい要素があるのではないですか。スケール感とかハード面ではない魅力が国立には見い出せるというか、「人と人とが触れ合うまち国立」のようなイメージが国立のブランドになるように感じます。

国立は機能を変化させていくまち

市／ハードにはソフトを絡める、ソフトにはハードを提供するという噛み合わせがないと、国立は生き残れないと思います。例えば、自転車レーンはまだ自転車を利用するのではなく、自転車のレンタルシステムを構築し、目的を達したら自転車を乗り捨てる事が出来るようにする。そんなサイクルステーションを市内に配置して、自転車の回収システムを確立し、市民に自動車では味わえない国立のまちを楽しんでいただきたいと思っています。

立川も武蔵村山も国立も、時代と共にまちそのものが生きていくわけです。まちを構成する大きな因子として、そこに市民が居て企業があり、あるいは公共交通機関があり、学校があり、いろんな因子が加わってまちを形成しています。だから一つでも変化すれば、まち全体が歪んだりする。そういう意味では、時代の先をどう読むのがものすごく大切だと思います。立川や吉祥寺にはこれかまくらもスケールの拡大をお願いし、国立はコンパクトに、大学通りに続くさくら通りというセカンドロードの車線を、4車線から2車線に減線して、その減線した分に自転車道と緑地などの歩道空間を確保する等、道路構造を変え、歩行者、自転車利用者にとって優しい道に変えます。近隣のまちには大きくなっていただいて、国立ではサイズは小さいけれど、機能に富んだまちにしていきたい。

地域の方々とどれだけ連携して物事を進めて行けるか



立川青年会議所 宇都木理事長

に思います。また、こだわりの雑貨や日用品などを扱う個人経営のお店が点在し、買い回りを楽しささというのも国立にはあると思います。市／例えば国立は美容院が多いとか、今のところ基幹病院はないですが、それは立川と府中に任せられています。ただ、クリニックはたくさんありますので、かかりつけとか主治医を自分で見つけやすいです。また散策しながら、買い物だけじゃなくて色々な事が出来ます。お友達に会うとか、子供を預けてお茶に行くとか。これだけの高齢化社会になってきた中で、国立は合計特殊出生率が2012年度で1.16と圧倒的に低いわけです。しかしながら、子供の人口は減らないのです。それは国立に魅力を感じ転入される方が多いという事です。公私立小中学校の学力も魅力の一つでしょうね。

理／以前お会いした際に市長がおっしゃっていたように、国立は文教都市というのが定着していますからね。市／ご存知のように、国立は、甲州街道を中心とした街村集落として発展してきたまちです。その後、南武線以北から中央線までは大正

市／国立はスケールメリットではなくて、機能をどう高めるか、時代に即応した機能かどうかだと思います。機能純化というのは、これからの市民の生き方を私たちがどう考えて、それをどうサービスパッケージに包んで市民の皆様にお届けするかの事です。先ほどもあった、総合的な職員は変えないけど、道路機能を変えたい、大学通りをどうですけど、道路が車だけのものではないはずなくて、1シーズンに1回、年に4回市民の広場であつていいわけです。

まち全体が時代と共に変化や、機能アップしないとイケないし、機能アップする時には、市民の志向がどこを向いているかを行政がキャッチしなければいけないことだと思えます。青年会議所の皆さんのような若い世代が「未来」を見据えながら、これからは更に積極的に前に出ていただければありがたいのかなと思えます。

理／私たちが立川青年会議所は会員が約百人余りです。東京で約1600人、日本全体で約200000人弱いるわけです。世界でみると約200000人弱いるわけですね。運動というのは、垂らされた水滴による水面の波紋と同じで、どれぐらい広がって行くかだと思います。水滴は大きく、波紋にも勢いが必要です。我々の運動に置き換えれば、どれくらいこの地域の方々と一緒に物事を進めていくか、いけたかをもっと真剣に考えることが大切です。これまでその視点と具体性が弱かったと検証をしている部分があり、今年はどうな場面でも「それってどれくらいの人に伝えられたのか」「どれくらい地域と関わりを持てたのか」を常に問うようにしています。その意識がないと物事が想定領域を超えず、1+1=2で終わってしまう気がします。想定を上回る化学反応が起きると面白いですよね。その為には仕組みやマインドも変革が必要だと考えています。今年も様々な部分で取り組みを実行しています。今回市長と対談させていただくことも、私の立場としてできる運動発信と考ええています。

市／素晴らしい。やっぱり誰かが「石を投じない限りは、動きは生じないですね。誰かの言葉ではないですけれども、落ちる水滴によって硬い石にも穴が空く。そういう努力や地道な考え方は、それに到達したら本物の理念に昇華す

昭和にかけて出来たまちですからまだやっと90年と若いまちでもあります。また2世紀も経たないわけですね。また、標榜する文教都市とは、昭和27年の文教地区指定がベースとなっているものです。

わんぱく相撲東京都大会立川場所を通して

市／例えば先日拝見させていただいた、わんぱく相撲東京都大会立川場所。私は正直あれだけの人が集まるとは思っていません。今少子化と言われる中で、あの空間はそれを感じさせなかったですね。

理／参加者だけでなく子供達で溢れていましたからね。主催する我々も本当にわくわくしました。

市／私が驚いたのは、雑誌では見た事はありませんでしたが、女子も男子に負けない相撲をとっていたことでした。男女共同参画じゃないですけど、あのわんぱく相撲の中に近未来の社会の縮図を見ている感じがしました。

理／ありがとうございます。わんぱく相撲という事業の目的は、参加者に相撲を通じて相手思いやり感謝する心や礼節などを学んでもらうことが主軸ではありますが、参加者のみならず、その場に立ち会うことによる間接的にも多くの事を感じていただけたかと思っております。市長もお気づきになったかと思いますが、子供が参加するとなればお父さんお母さんは当然のこと、更におじいちゃんおばあちゃんまで応援に来ていました。世代間で共有する事が生じ、褒めたり慰めたりといった話題になるでしょうし、そこから得るものも多いという点を考えた時に、直接間接に関わらずこれだけ多くの人が参加してもらえらるということ、この立川大会開催に際してすくく考えました。単に、相撲事業として、礼節です、と書いてもなかなか人は来ない。わんぱく相撲の都大会というのは、東京中から人が来ますから今年で言えば、ただ相撲をやりますだけではなく、この立川という地域を発信できるように大会にしたいと考えています。結果として、各方面の方々のお力を借りて複合的な大会ができたと思えますし、一つの事業を通じて地域との関わり方も含め、学び多き機会になつた

ると思います。

今後の未来を担う子供たちへ「地域愛」を育ててもらいたい

理／「まちづくり」という言葉がありますが、それは色々な捉え方があると思います。私は「市民プライド」すなわちこのまちに住んでいる、このまちで働いている、暮らしているという誇り、それと「地域愛」に言い換えられる。そんな意気溢れる人が一人でも増えていくことこそが究極のまちづくりではないかと思っております。我々が青少年育成事業に力を入れているのは、子供から大人になつたときに、「このまちで暮らせるかが重要だと考えるからです。その手段として、相撲もありますし、様々な事業があり、自分たちの住み暮らすまちに居続けたい、居る誇りを持てるかどうかを、様々な手段を講じながら醸成していこうとしているのだと思います。そんな誇りを持つ人達が増えること、きつと自分たちが住んでいるまちを少しでも良くしたいという気持ちになるはず。私はその連

と感じています。

人と人が触れ合うまち国立

市／理事長が言われたことに表れていると思います。その考え方がどうか理念というか。やっぱりその深さがないと、相撲道だとか礼節だとかに押し流されてしまつて、ちょっと薄い大会になつてしまふ。今の話の延長線上でお話をさせていただければ、日本の家族制とか家父長制においてもその地域性があつたわけですね。地域社会があることがまた良かったと私は思っています。ところがそれが核家族や、終身雇用の制度が崩れていったのと同じように、妙なヨーロッパナイズ、アメリカナイズされた社会を作ろうとし、あまりにもその過程の中で、機能性を追求したため、生産性が少なくなつた人をそぎ落としてしまつた。それがやはり、今の社会の縮図になつてきている。そのことを今、日本中で反省している。

我が家は三世代、8人家族で生活しているのですが、人からは奇異に見られます。なんでこんな多いのですかととか、なんで一緒に居られるのですかととか。一緒に居る僕らとしてみれば、不思議でもなんでもない事です。

理／やや飛躍しますが、古き良き家族の姿は、国立の個性になり得ると思っております。これだ



鎖を作るのが運動だと思っております。今年もキッズドリムチャレンジという事業を8月に開催しました。この事業は特にさういう「地域愛」を子供たちに育ててもらいたいという想いで、我々の50周年記念事業に位置付けております。

市／青年会議所の皆さんが持続出来るのは、今理事長が言われたように、基礎的な考え方がしっかりしているという事と、その考え方をベースにした地道な、具体的な取り組みを展開されているということだと思います。これは基礎自治体である我々と同じで、空理空論でやっていたら潰されてしまいます。だから行政だけが何かできる、青年会議所だけが何かできるじゃなくて、共にやっていく姿勢そのものが重要です。ただみんな横線じゃいけないから青年会議所さんには2歩か3歩前に出てリーダーシップを発揮していただけて牽引してもらおうと思っております。その期待感は大いに持たせてもらいます。

理／そのご期待に応えられるよう、私たちは常に地域と連携し「明るい豊かな社会の実現」のため日々運動していき事をお約束いたします。本日は貴重なお話ありがとうございました。

公益社団法人立川青年会議所 第904回例会

第26回

わんぱく相撲

東京都大会

立川場所 夢への挑戦

～強い心と感謝の気持ち～

2014年6月29日(日)に立川市子ども未来センターにて「第904回例会 第26回わんぱく相撲東京都大会 立川場所 夢への挑戦 ～強い心と感謝の気持ち～」を開催いたしました。

「わんぱく相撲東京都大会」は、東京都内の各地区大会を勝ち抜いた約220名の小学校4・5・6年生の子供たちが一堂に集結し行われるものです。また、今大会は地域への愛着を持ち、地域社会発展にも繋がることを期待して「わんぱく2014」と題し、地域商店街などと連携して開催するイベントを行い、本大会を盛り上げました。そして責任ある大人たちが協力して作り上げたこの大会で「相撲」を通して、子供たちに勝敗のみにこだわりのではなく、勝つことの喜びや負けることの悔しさを体験することにより、勝者を称え敗者への思いやりを育むこと、さらには夢や気付きを子供たちに与えることが出来たらと思います。ご参加・ご協力・ご来場いただきましたすべての皆様、本当にありがとうございました。